

委員会の方針

1 検討方針について

前回のマニュアル改訂から約 10 年が経過したところ。

R4 年度にかけて以下の点について検討を行い、マニュアルへ反映する。

(1) 評価の理念と哲学

- ・ B/C で単純に評価するのではなく、多面的な評価を行う。
- ・ 経済的な資源配分の効率性だけではなく社会的正義や公平性の精神を持つ。

(2) 多様な効果の評価

個別事業に貨幣価値への換算が非常に困難、或いは適さない効果がある場合に留意。

- 【例】
- ・ まちづくり・地域づくりの効果
 - ・ CO2 削減
 - ・ バリアフリー化
 - ・ 老朽インフラの維持更新（鉄道の存続の必要性）
 - ・ 防災性向上（幹線鉄道ネットワークの多重性）

(3) 事後評価の重要性の明確化（次への糧になる記載の充実）

2 委員会委員について

【委員候補】

- ・ 家田 仁 教授 政策研究大学院大学（座長）
 - ・ 伊藤 香織 教授 東京理科大学
 - ・ 岩倉 成志 教授 芝浦工業大学
 - ・ 大串 葉子 教授 椋山女学園大学
 - ・ 加藤 浩徳 教授 東京大学大学院
 - ・ 金子 雄一郎 教授 日本大学
 - ・ 田邊 勝巳 教授 慶應義塾大学
 - ・ 羽藤 英二 教授 東京大学大学院
 - ・ 村上 早紀子 准教授 福島大学 ※五十音順、敬称略
- （行政委員：国土交通省の鉄道局内等、（独）鉄道・運輸機構を想定）

3 今後の進め方について（案）

- ・ 今年度内に委員会を立ち上げ、今後の方向性を検討
今年度調査の委託先より、調査終了に伴い暫定的な結果を報告
- ・ 令和 4 年度、委員会の開催、マニュアルの改訂

以 上